

令和4（2022）年度 ECC学園高等学校 学校評価

本年度の 重点目標

- ・ECCの通信制高校としての特性を活かした教育の実践
- ・高校卒業後進路未定ゼロへ、一人ひとりのニーズに合わせた進路指導の実行
- ・高島市の資源を活かし、地域団体とも連携した教育の実践

評価基準—（肯定的評価が） A：75%以上 B：50～74% C：25～54% D：25%未満

領域	重点評価項目	生徒評価	保護者評価	自己評価
学校生活	学校の施設や設備は充実している。	A	—	B
	学校は生徒や保護者に通信制高校の仕組みを理解させている。	A	A	A
	学校は生徒にとって満足度の高い教育を行っている。	A	A	A
学習指導	レポートの難易度や分量は適切である。	A	A	B
	学校は学習理解に役立つレポート指導を行っている。	—	A	A
	学校は高島市の文化や自然を生かした体験活動を行っている。	B	A	B
	スクーリングでの体験学習は、有意義なものとなっている。	B	—	A
	テストの難易度や分量は適切である。	B	—	B
生徒支援	学校は質問や相談に対して、親身になって対応している。	A	A	A
	学校は進路実現に向けた情報提供や相談の機会を、適切に行っている。	A	A	A
	学校は家庭との連携を適切に取っている。	—	B	A

■学校評価アンケート 自由回答欄より

- ・ 部屋数がもう少しあるといいと思う。
- ・ レポートは易しめだと思う。中学不登校の人とかもたくさん居て妥当だと思うが自分の中では簡単すぎる。
- ・ ロッカーをつくってほしい。
- ・ とても楽しく過ごしています。ありがとうございます。
- ・ 1人1人丁寧にサポートしていただいて感謝しています。
- ・ 多くの生徒がいる中で個々をよく見てくださっていることにいつも感謝しています。
- ・ オンラインで説明会や懇談会がある際は事前に資料が手元にほしい。開始5～10分前からルームに入れるようにしてほしい。

■成果が認められる点

- ・ スクーリング内容に関して、高島市の資源を活用した展開を行ったため、生徒・保護者・教職員共にスクーリングに関する評価は昨年度より高評価。
- ・ 進路指導強化により大学・短大進学者数が微増。関西大・立命館大合格者も輩出。
- ・ 外的要因（コロナ禍・通信制高校認知）と内的要因（アプローチ強化）が相まって生徒数が増加。
- ・ 不登校支援やサポートを必要とする生徒層が大半を占めるが、語学やスポーツ（ゴルフ・武術太極拳）自身の時間を有効に使いたいやゲーム制作・美容・英語（山口学園3専門学校高等部＝サポート校）において通学主体に専門知識を学びたいという生徒層の増加。
- ・ 転入学者の増加に伴うサポート。
- ・ 科目横断的な授業展開など内容の充実。

■今後努力すべき点

- ・ 椋川の本校および高島市の資源を活用したスクーリングの更なる充実。
- ・ 生徒数は増加傾向だが、収容定員の600人充足を目標に、教育内容充実による出口数値を創出し、広報活動につなげる。
- ・ 卒業後の進路（その他）を10%程度に、進学および就職指導と支援ができる体制を更に整備する。
- ・ 通信スタイルの利便性を高める方法の検討を実施する。
- ・ ガイドラインに沿った教育指導等の特色づくりを進める。

高 総 第 2 2 6 号
令和5年11月27日

ECC学園高等学校
校長 下 澤 辰 次 様

高島市長 福 井 正 明



構造改革特別区域法第12条第5項に基づく学校評価結果について

構造改革特別区域法第12条第5項に基づく令和4年度学校運営状況等の評価について、令和5年8月24日に評価機関である高島市環の郷教育特区学校審議会を開催して評価を行ったので、同条第6項の規定により、その結果を、下記のとおり通知します。

記

○評価結果

学校運営状況、教育組織体制および経営財務状況について評価を行った結果、学校の理念や教育目標を達成するための学校運営が適正に行われているものと判断します。

なお、各項目の評価結果は別紙のとおりです。

【別紙】

令和4年度ECC学園高等学校学校評価結果

【評価項目ごとの評価結果】

○学校運営状況

コロナ禍において、通信制高校の強みである、きめ細やかな対応を発揮され、また活発な広報・営業による学校の認知度向上、入学を考える生徒・保護者への丁寧なサポートによって、在籍生徒数の増加を実現されている。

一方、これまでから課題となっている教職員スタッフの確保については、通信制高校における教育の質の確保という観点、またECC学園高等学校の学校評価に関わる生徒・保護者への手厚いサポートを維持するため、引き続き、改善に取り組まれない。

○教育組織体制

コロナ禍から従来の教育活動が戻っていく中で、高島市の自然資源、社会資源、文化資源、これらを活用して、スクーリングを展開するという、開学から大切にしている価値や、その意味が学校評価として表れている。

今後もスクーリングの充実を図られながら、必要とされる観点別評価の導入について検討するなど、教育内容の充実を目指されたい。

○経営財務状況

コロナ禍においても、生徒数を増加させることで、ECC学園高等学校としての売上を確保されており、株式会社ECCとしても多角的な事業展開によって、安定した経営の状態を維持されている。

今後も、売上と経費配分のバランスを取りながらも、必要となる教職員スタッフの待遇改善を実施し、学校に通う生徒への教育サービスの充実に還元されるよう、考慮されたい。

○その他

学習指導要領に基づいた記述形式のレポート・テストの内容・方法のさらなる検討により、生徒本人の学力確保につながり、主体的な取り組みを促すような教育カリキュラムの構築に取り組まれない。